



## 注目集まる中国内陸部と武漢 日本企業専用工業団地の準備を進めるシスプロ

日系企業の中国内陸部への進出傾向が顕著になってきた。沿岸部の人件費高騰が尋常ではなく現地生産メリットがなくなりつつあること、中国政府の内陸部を重視した数々の施策もあり市場が中国全土に拡大しつつあること、世界景気に極めて敏感に影響を受ける沿岸部に比べ安定した成長が見込まれること等々、多くの理由が挙げられるだろう。

湖北省武漢市はホンダ、日産と完成車メーカーが進出していたこともあり、早くから日系企業の進出が進んだ地域だが、ここに来て再び投資が増加している。メーカーだけでなくIT会社やサービス業の進出も増えており、日系以外の外資企業も次々と新拠点を設立している。

古くから交通の要所として知られる「中国のヘソ＝武漢」の現状と、建設へ向け準備が進む日系企業専用工業団地について紹介する。

### 「九省通衢」と呼ばれる武漢 伸びしろの大きさに期待が集中

湖北省の省都である武漢市は、古くから華中地域全域の中心都市として知られる。長江をはさんで存在する武昌、漢陽、漢口は三鎮と呼ばれ、「武漢」の名称もそこから由来する。

長江と漢江が合流し、9つの省と通じる「九省通衢」（四川、陝西、河南、湖南、貴州、江西、安徽、江

蘇、湖北省と通じる交通の要所）と呼ばれるほど、地理的に古くから重要視されてきた土地柄だ。

今日、同市への進出が加速しているのも、その地理的優位性が再び注目された結果であろう。

南京、上海、杭州、広州、西安、重慶などの重要都市がほぼ同心円状に並び、交通網の整備と相まって「九省通衢」はより広域で意味を持ってきたと言える。

沿岸部に進出が増加した最大要因

は、中国への進出＝輸出製造拠点としての位置付け、であったからだ。もちろん現在でもそういった側面は残っているものの、中国市場が最大の市場へと成長しつつある今日においては、沿岸部で製造するメリットはそれほど多くない。

中国国内が供給先となった今ではむしろ、沿岸部より武漢や重慶といった内陸部、それも華中地域が生産拠点として優位となってきたのだ。

内陸部とあって、沿岸部の急激な経

済成長に置いて行かれた感もあるが、それが人件費や施設にかかるコストなどを低く抑えており、成長の「伸びしろ」を残していると言えるだろう。

企業の進出は、設備投資を呼び、雇用の増加、市場の拡大へと繋がり、その過渡期において大きな商機を生む。

武漢市など内陸部の主要都市の可処分所得や労働賃金は沿岸部の「4～6年遅れ」と表現されるが、昨今の中国におけるこの4～6年が、どれほどの意味を持つかは取えて言うまでもないだろう。

すでに沿岸部に拠点を持つ日系企業や外資企業が、武漢に移転する動きが増えつつある。

## 労働力～良質で低コスト 定着率や日本語能力の高 さも魅力

武漢の魅力のひとつとして「良質」な労働力が挙げられることが多い。

まず労働コストが安価である。他都市と同様に高騰しているとはいえ、沿岸部に比べておよそ2～3分の1程度に留まっている。

同市の最低賃金は、2011年12月1日付で月900元(1万800円)から1,100元(1万3,200円)と22.2%引き上げられたものの、この価格で雇用できる日系企業は存在しないだろう。

一般ワーカーの平均給与は年1万8,000元～2万4,000元。深?の5万元、上海の4万7,000元と比べれば極めて安価であることがわかる。

武漢でのワーカーの確保は沿岸部と比べて容易であるが、その理由としてあげられるのは、同市の発展と企業進出の加速による就労機会の増加である。これまで沿岸部の都市に出稼ぎに行っていたワーカーが、自宅から出勤できる武漢周辺で働くことを選択し始めたからだ。

このことは中国に進出する日系企業が常に頭を抱えるテーマである、離職率を低く抑えることにもつながっている。

沿岸部への進出企業は、高い賃金で

ワーカーの流出を止めなければならない。

良く言われることだが、内陸部からの出稼ぎ工員が春節になると帰ってこないという現象は、毎年増加する一方であり、春節前に賃金を引き上げたり、春節後に冬のボーナスを支給したりと、その防止策に各社とも頭を悩ませている。

ところが出稼ぎ工員の出身地である内陸部

に進出した企業では、最初から「故郷や実家に近い」というアドバンテージを持つことが可能となるからだ。

たしかに沿岸部との賃金格差は大きい、住宅費などの生活費も高騰しており、単純にどちらが良い暮らしができるかを比較することは難しい。武漢市で働こうという労働者が増えていることは不思議ではない。

供給力の豊富さを支えるもうひとつの要因は学生数の多さだ。昨年には大学在校生は100万人を突破、これは中国最大、もちろん世界でも最大の規模である。2008年に75万人であったことを考えれば、凄まじい成増加率である。ちなみに北京市の大学生数は87万人。

当然、大学も多く存在し、名門の武漢大学のほか、華中科技大学、武漢工程大学、武漢理工大学といった理工系の大学が多いことで知られる。日本語教育にも熱心であり、優れた技術者候補を日系企業が獲得できる土壌がある。

ただ武漢市への進出が加速すればするほど、状況は都市部に近づいて行っていることも確かである。

すでに労働者確保のための競争が激化しつつあり、とくに労働力集約型の工場、人材の確保が難しくなっているという。ただ労働力不足だと言われている「富士康」(=フォックスコン)、「海爾」(=ハイアール)はと



もに、労働賃金が低いことで有名であり、単純労働者を多く必要としていることから、労働者側の上昇・成長志向と相まって忌避されていることも考慮に入れなければならない。

人材不足が叫ばれているのは、機械製造業、サービス業だがこれも2つの意味合いがある。

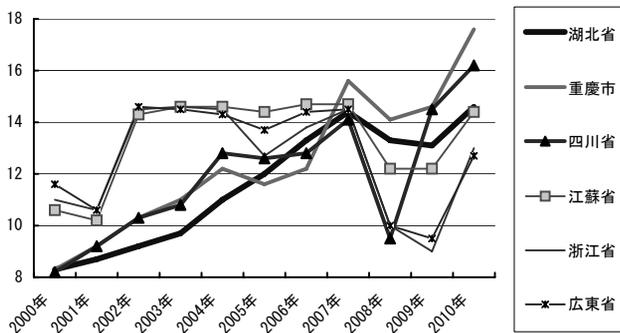
機械製造業では、日系企業など外資企業の進出で中級以上の技能レベルを持つ技術者が多く求められるようになったことによる不足。もうひとつは、先に述べた単純労働者を大量に必要とする企業による雇用需要増が挙げられる。

サービス業については「サービス業の経験者が極めて少ない」という面がある。日本式、欧米式に限らず先進国のサービス産業の進出は製造業に比べてかなり遅れてきたことから、そもそも経験者がいないのだ。この点については「自らが育成するしかない」(日系人材紹介会社)とのこと。

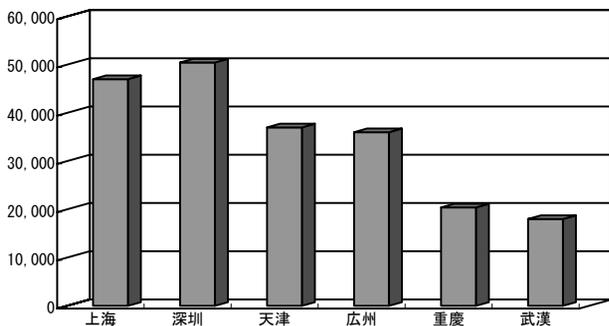
## 日系企業の進出 自動車産業からサービス業へ

日系企業による武漢市への投資案件は、早くから日産、ホンダの現地法人向けに進出してきたこともあり、やはり自動車産業向けが中心となっている。ただ電子電気、サービス業でも進出が増えてきた。

地域別GDP成長率推移(%)  
湖北省は安定して成長を続けている



中国都市部の平均年収(元)  
武漢市は沿岸部の2~3分の1だが急上昇中



ブリヂストンは自動車シート用ウレタンフォーム工場を新設。10億円をかけて年産30万台の生産体制を整える計画で、2012年4月から量産を開始する。中国での同製品生産拠点は広州市に次いで2カ所目で、生産能力は70万台に引き上がる。

2010年12月に設立した現地法人「普利司通(武漢)化工制品」を通じて建設する予定で、敷地面積2万㎡、スタート時の従業員数は80人。広州拠点「広州普利司通化工制品」の現有能力は40万台。中長期的な需要拡大が見込める中国市場向けに供給体制を強化し、迅速かつ高品質製品を提供していくとしている。

スタンレー電気は、自動車用照明製品製販会社を設立した。2013年1月完成を目指し新工場を建設、内陸部への生産拠点設置が相次ぐ自動車関連企業への供給体制を整える。新工場稼働後の2014年度には売上高85億円を目指す。

新会社「武漢斯坦雷電気」は資本金

3,000万ドル、中国法人の「広州斯坦雷電気」が50%、「斯坦雷電気(中国)投資」が35%、現地自動車部品企業「広州汽車集団零部件」が15%出資して設立。新工場の敷地面積は10万㎡、建屋面積3万2,000㎡で、自動車用照明製品・電子機器製品を生産する。金型・関連部品の研究開発やアフターサービス業務も行う予定。新工場が稼働するまでは広州拠点の生産品を販売する。

資材面での進出も見える。新日鉄は現地企業「武漢鋼鉄(集団)」と合弁でブリキの製販会社「武

鋼新日鉄(武漢)ブリキ」を設立している。武漢鋼鉄の製鉄所構内に新工場を建設し、2013年夏に稼働する予定。総投資額は18億5,000万元(約240億円)。

新工場では、年産40万トンの連続焼鈍ライン(CAPL)と同20万トンの電気鋸めっきライン(ETL、ブリキライン)を建設する。ブリキ製造母材の冷間圧延鋼板は武漢鋼鉄から調達する。CAPLで生産するブリキ原板(ローモ)の20万トン分は新会社がETLでブリキにして販売、残り20万トンは新日鉄と武漢鋼鉄が各社のブリキ製造拠点で活用する。

新日鉄の海外ブリキ製造拠点は今回で4カ所目。既存海外拠点では、新日鉄から供給を受けたローモをETLでブリキにして販売しているため、原板となる冷延鋼板を現地調達し、自社でCAPLによる熱処理からブリキの製造・販売を手掛ける海外拠点は、新日鉄のブリキ事業にとって今回の新会社が初めてのケースとなる。新興国を

中心に食品缶や飲料缶などに使用するブリキ需要は世界的に増加。新会社では、武漢鋼鉄が持つ中国での事業基盤と新日鉄の技術を組み合わせ、中国中西部を主なターゲットとしてブリキの製造・販売事業を行う、としている。

電子電気、精密機器分野での投資も増えつつある。オハラは新興国のデジタルカメラ需要拡大に対応し、湖北省の光学ガラス生産能力を1.7倍に拡大している。現地合弁会社の増資を受け設備投資に充当、増資総額1億元(12億2,500万円)のうち同社引受額は4,900万元(6億円)。新溶解炉の稼働は2012年夏を見込む。

現地同業「北方光电」との合弁会社「華光小原光学材料(襄陽)」で、月産20トンの光学ガラス溶解炉を2基増設する。1基目は今年1月にすでに稼働、2基目は今夏にも稼働する予定。同社の現有能力は60トンで、増設後の生産能力は100トンに拡大。光学ガラス半製品の生産設備と合わせると月産170トン体制を確立する。設備投資に充当する増資は両社が出資比率見合いで引き受け、増資後の資本金は3,100万ドルに引き上がる。

光学ガラスはデジタル一眼レフカメラや交換レンズ需要増加でおう盛な需要が続いており、今後も中国を中心とした新興国での堅調な成長が見込まれている。レアアース原料が安定調達できる中国で安定供給体制を構築し、収益拡大を目指す。

村田製作所は電子機器販社「村田電子貿易(上海)」の武漢支店を開設している。同社支店設置は6カ所目。現地沿岸部に進出する顧客の内陸部シフトに加え内陸部に所在する現地企業の台頭を受け、同地での将来の需要拡大を見込み体制整備を図った。

サービス業では、イオンが同市内に大型ショッピングセンターを3店舗オープンすることで同市と正式に調印。同市での展開を加速していく方針を打ち出している。このイオンの武漢進出を支援したのが、次ページで紹介する日系工業団地の準備を進めているシスプロである。

■直近の日系企業による武漢市での投資案件

出資企業名 (出資比率)	現地法人名/設立、資本金、所在地	事業内容/投資額、稼働時期、能力、生産、売上高など
ブリヂストン100%	<b>普利司通(武漢)化工制品</b> (設)2010/12 (資)1,100万ドル(10億円) (所)湖北省武漢市	<b>[自動車部品]湖北省に自動車シート用材料工場/(投)10億円、(能)年産30万台、(稼)量産開始2012/4、(規)敷地面積2万㎡、(従)80人</b> 武漢市に自動車シート用ウレタンフォーム工場を新設。中国での同製品生産拠点は広州市に次いで2カ所目で、生産能力は2拠点合計70万台に引き上がる。
日産自動車50% 東風グループ50%	<b>東風汽車</b> (設)2003 (資)167億元(2,020億円) (所)湖北省武漢市	<b>[自動車]中国生産能力を2015年倍増/(投)新設・増強合計500億元(6,100億円)、(能)年産120万台→230万台(2015年)</b> 中国自動車年産能力を、2015年に現状比倍増。現在建設中の花都第2工場(広東省広州市、2012年竣工、年産24万台)、湖北省十堰市の中・大型商用車新工場(2011年竣工)に加え、江蘇省常州市に小型商用車工場を新設。鄭州第2工場や襄樊工場の組立ライン追加なども実施予定。
新日本製鐵50% 武鋼武漢鋼鐵集団50%	<b>武鋼新日鉄(武漢)ブリキ</b> (設)2011/5~6 (資)7億4,000万元(約93億円) (所)湖北省武漢市	<b>[金属製品]ブリキ製販合併/(設)2011/5~6、(投)18億5,000万元(約240億円)、(稼)2013/夏、(能)連続焼鈍ライン(CAPL)年産40万トン・電気鋸めつきライン(ETL)年産20万t</b> 新工場は武鋼鋼鐵の製鉄所構内に建設。ブリキ製造母材は武鋼鋼鐵から調達。生産するブリキ原板の20万トン分は新会社がETLでブリキにして販売、残り20万トンは新日鉄と武鋼鋼鐵が自社ブリキ製造拠点で活用。原板調達から製品化までの一貫生産拠点は初。
伊藤忠商事10% 東邦ホールディングス41% 九州通49%	<b>湖北共創医薬</b> (設)2011/5 (資)3,000万元(4億円) (所)湖北省武漢	<b>[医薬/卸売]武漢で現地医薬卸と合併</b> 2011年1月に、中国医薬品・医療機器卸売会社「九州通医薬集団(股)」(湖北省武漢市)と合併で、湖北省武漢市に日本・海外製医薬品、医療機器などの卸売会社「湖北共創医薬」を設立、本格営業開始。従業員数40人。九州通の物流販売網を活用し、2012年取扱高3億元(40億円)を目指す。
日精樹脂工業	<b>武漢事務所</b> (設)2011/6 (所)湖北省武漢市	<b>[一般機械]湖北省に射出成形機サービス拠点/(設)2011/6、(従)3人(2011年末)</b> 内陸部へのアフターサービス拠点として顧客サポート体制を強化。武漢地区は日欧の自動車・自動車部品メーカー、電子部品メーカーの生産拠点集積地で、主要工業区から1時間圏内とアクセス面での利便性が高いと判断。
日工37.5% 山推工程機械55.625% 武漢中南工程機械設備6.875%	<b>山推日工建設機械</b> (設)2010/4 (資)2億2,000万元(27億円)	<b>[一般機械]湖北省でコンクリートポンプ車生産開始</b> 2011年4月から合併会社「山推日工建設機械」(湖北省武漢市)でコンクリートポンプ車などの生産を開始。新工場は敷地面積33万㎡、設備投資額は50億円。スタート時の年間生産計画はコンクリートミキサー車が500台、定置式コンクリートポンプ150台、ブーム式コンクリートポンプ車90台、パッチャープラント10台。
広州斯坦雷電気50% 斯坦雷電気(中国)投資35% (スタンレー電気グループ) 広州汽車集団零部材15%	<b>武漢斯坦雷電気</b> (設)2011/10 (資)3,000万ドル (所)湖北省武漢市	<b>[リース]湖北省に自動車用照明製販会社/(設)2011/10、(売)2014年度85億円、(稼)2013/1、(規)敷地面積10万㎡、建屋面積3.2万㎡</b> 内陸部への生産拠点設置が相次ぐ自動車関連企業への供給体制を整備。金型・関連部品の研究開発やアフターサービス業務も行う予定。新工場が稼働するまでは広州拠点の生産品を販売。
伊藤忠商事10% 東邦ホールディングス41% 九州通49%	<b>湖北共創医薬</b> (設)2010/5 (資)3,000万元(4億円) (所)湖北省武漢	<b>[医薬/卸売]武漢で現地医薬卸と合併</b> 2011年1月に、中国医薬品・医療機器卸売会社「九州通医薬集団(股)」(湖北省武漢市)と合併で、湖北省武漢市に日本・海外製医薬品、医療機器などの卸売会社「湖北共創医薬」を設立、本格営業開始。従業員数40人。九州通の物流販売網を活用し、2012年取扱高3億元(40億円)を目指す。
イオン	<b>旺夢案城(中国)商業管理</b>	<b>[サービス]大型ショッピングセンター3店舗</b> イオンと武漢市政府は2011年に協力意向書に調印しており、江岸区、武漢市経済技術開発区、東西湖開発区の3カ所に、大型ショッピングセンターを建設。東西湖奥林匹克花園プロジェクトが最も早く着工する見込みで、今年5月に契約が調印され、工事がスタートする計画。